

自己評価報告書 学校関係者評価報告書

(平成29年度)

愛知産業大学三河高等学校
通信制課程 単位制

目 次

I 学校概要

II 教育目標

- (1) 学校法人 愛知産業大学建学の精神
- (2) 愛知産業大学三河高等学校通信制課程(単位制)の教育目標
- (3) 愛知産業大学三河高等学校通信制課程(単位制)の教育指導方針

III 重点目標の達成及び改善方策

- (1) 学習指導
- (2) 生活指導
- (3) 進路指導
- (4) 生徒相談
- (5) 生徒募集
- (6) 総 務
- (7) 校 務
- (8) 事 務

IV 本年度の具体的な取り組み

V 来年度の具体的な取り組み予定

VI 重点目標の達成に対する考察

VII 生徒アンケート結果の総合考察

VIII 保護者アンケート結果の総合考察

IX 今後の方向性

X 学校関係者評価委員会報告書(全日制・通信制課程単位制合同)

I 学校の概要

(1) 学校名

愛知産業大学三河高等学校

(2) 課程

通信制課程

(3) 所在地

〒444-3523

愛知県岡崎市藤川町西川向1-20

TEL: 0564-48-5230 FAX: 0564-48-8775

ホームページ: <http://asu-mikawa-tani.jp>

(4) 沿革

昭和58年 三河高等学校の創立が認可され、校舎を岡崎市字原山12番地の10に置く。

昭和58年 三河高等学校を開設。全日制課程の普通科と電気科を置く。

昭和60年 三河高等学校の全日制課程に情報処理科と通信制課程を設置する。

平成3年 愛知産業大学の設置が認可され、校舎を岡崎市字原山12番地の5に置く。

平成7年 三河高等学校の校名を愛知産業大学三河高等学校に改称する。

平成10年 愛知産業大学三河高等学校に単位制（普通科）を設置する。

平成16年 愛知産業大学三河高等学校の単位制新校舎が完成。

(5) 通信制課程の構成

学年制の生徒が在籍する技能連携校（専門学校高等課程）と本校独自の単位制で構成されている。

学年制には、普通科・商業科があり技能連携を結ぶことによって専門学校の学修を本校の単位として認定することが出来る。本校単位制には、2つのコース（午前コース・午後コース）を設けている。

(6) 技能連携校

名古屋情報専門学校 高等課程

あいちビジネス専門学校 高等課程

西尾高等家政専門学校 高等課程

名古屋調理師専門学校

専修学校東洋調理技術学院

豊橋ファッション・ビジネス専門学校

大岡学園ファッション文化専門学校

(7) 技能連携校の学科構成

名古屋情報専門学校 高等課程	商業科
あいちビジネス専門学校 高等課程	普通科
西尾高等家政専門学校 高等課程	普通科
名古屋調理師専門学校	普通科
専修学校東洋調理技術学院	普通科
豊橋ファッション・ビジネス専門学校	普通科
大岡学園ファッション文化専門学校	普通科

(8) 生徒数及び教職員数（平成29年5月1日現在）

	単位制普通科		連携校普通科		連携校商業科		計
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
1年生	23	21	129	80	244	26	523
2年生	54	32	127	68	188	23	482
3年生	71	46	120	56	183	30	506
計	148	99	366	204	615	79	1511

教職員数

校長 教頭 教員 7名 兼任教員 1名 精神保健福祉士 1名（兼任）
事務職員 2名

II 教育目標

(1) 学校法人 愛知産業大学建学の精神

豊かな知性と誠実な心を持ち 社会に貢献できる人材を育成する

(2) 愛知産業大学三河高等学校通信制課程（単位制）の教育目標

本校通信制課程単位制は、転学希望生徒や高校中退生徒の再チャレンジの場として、また不登校気味中高生の成長の場として、高校卒業資格の取得を第一目標に指導しています。また、卒業後の進路指導についても力をいれている。

(3) 愛知産業大学三河高等学校通信制課程（単位制）の教育指導方針

単位制の多くは、他の高等学校からの転入学生であり、学び直しを希望する編入学生である。個性豊かでいろいろな問題を抱えているが、その目標は「高等学校卒業」である。その希望に応えるため、家庭との連絡を密にして意欲と自覚を促し、単位取得と退学防止をはかる。また、わかりやすい学習指導、進路指導、悩み相談を行い、将来のために次のステージへつなげる。

Ⅲ 重点目標の達成及び改善方策

(1) 学習指導

重 点 目 標
① 各科目の単位修得率を向上させる努力をする。
② 生徒の基礎学力向上に努める。
③ 試験による不正行為をなくす。
④ 欠課オーバーによる科目不認定者を減少させる。
⑤ 「よくわかる授業」の実践に心掛ける。
⑥ 授業中のマナー指導の徹底(携帯電話・スマートフォンの使用 禁 止、居眠り)
⑦ 授業の視聴覚教材を作成する。
⑧ 技能連携校スクーリングの新教材の作成と確認を行う。
⑨ 技能連携校におけるスクーリングを効果的に行う。
⑩ 総合学習(体験学習)を効果的に行っている。

(考察)

- ・学力の違う生徒を同じ授業で行うのはかなり無理があると思うが各先生方で工夫して授業を行っている。しかし、以前よりは徐々に落ち着いた授業が多く、生徒の出席率も向上している。出席して頂いた生徒は少しでも理解できる授業を今後も心掛けたい。連携校のスクーリングについても年間3日間ではありますが、少しでも受講生徒が満足して頂けるような内容に変えていきたい。

【課題】

- ・学力差が大きいため、全員の生徒を理解させるための工夫をする。
- ・授業中のマナー指導を徹底させる。
- ・技能連携校のスクーリングの生徒満足度を高める工夫をする。
- ・総合学習の内容を充実させ、進路に結びつけるようにする。
- ・不登校生徒に対する指導および声かけ、カウンセリングを行う。

【改善方策】

- ・不登校ぎみの生徒が多いので生徒に対して声掛けに心がける。
- ・授業レポート作成の段階で基本的な内容を精選し、できる限り生徒の学力が向上するように工夫する。
- ・視聴覚教材(パワーポイント、動画など)や実験を授業に取り入れ、わかりやすい授業に心がける。
- ・欠席・遅刻が多い生徒に対しては担任が家庭連絡を行い、保護者に周知し協力を願う。
- ・授業中のマナーについては現場で注意を与え、再三の注意指導については指導を行う。
- ・技能連携校スクーリングを視聴覚授業だけではなく本校教員による授業も行う。

(2) 生活指導

重 点 目 標
① 登下校時のマナーはしっかりしている。
② 校内外の巡視を行い、喫煙防止を図る。
③ 車両等による通学者は許可を得てマナーを守り通学している。
④ 公共交通機関利用時のマナーとモラルの意識向上を図る。
⑤ 交通安全に対する意識を持つように指導している。
⑥ 生徒自身に、登校日を正確に把握させ、確実に登校させる。
⑦ 健康診断通知配布と共に、治療が必要な生徒に対して治療勧告を配布する。

(考察)

- ・前年度に比較すると若干向上したように感じてはいるが、職員が見ていないところではまだまだ生活指導が不十分なところがあると考えます。今後も油断することなく指導をして行きたい。

【課題】

- ・地域住民の方々に迷惑にならないようにマナー指導の徹底する。(駅、コンビニ等)
- ・駅や学校周辺の通学路で喫煙行為ないように、その巡視と指導をする。
- ・成人の生徒も在籍するため交通安全指導を行う必要がある。
- ・本校の駐車場に自動車等の駐車許可を得ていない生徒が駅駐輪場や校舎周辺の私有地へ無断駐車をすることがあるので巡視をして指導する。

【改善方策】

- ・登下校指導を強化する。
- ・違反生徒には保護者来校をお願いをして指導する。また、再三の指導に従えない生徒は退学処分とする。
- ・ポスター、「メール発信システム」を利用して注意喚起を促す。
- ・健康診断を行い再検査が必要な生徒は保護者へ文書でお願いする。

(3) 進路指導

重点目標
① 進学率を高める努力をしている。
② 学校斡旋就職希望生徒の内定率の向上。
③ フリーター・ニート等による進路未決定者の減少を目指す。
④ 担任が自クラスの進路を把握する。。
⑤ 愛産大等姉妹校への進学を推奨し、増加を目指す。
⑥ 生徒が、能力・適性に合った進路を見つけられる為の面接指導を行う。
⑦ 就職説明会、姉妹校説明会への出席を指導する。

(考察)

- ・卒業ができればよいと考える生徒もいるのでなかなか進路決定率を向上することができない。生徒の進路相談を重視し生徒の状況に応じて指導していくしかない。また、そのなかで姉妹校進学を推奨する。

【課題】

- ・卒業のみを考えている生徒に対する進路指導方法を検討する。
- ・進路活動に入る時期が全日制生徒と比較するとかなり遅い。
- ・進学、就職希望があっても目標に対する努力をしない。
- ・就職に内定しても辞退する生徒がいると今後の企業との関係が悪くなる。

【改善方策】

- ・進学説明会、姉妹校説明会、就職説明会などに積極的に参加させる。
- ・体験学習などに積極的に参加させ、進路選択の幅をひろげる。
- ・愛産大単位取得コース（高大連携）を利用し内部進学率を高める。
- ・進路調査をもとに個人面談を実施する。
- ・就職・進学の合格率を高めるために模擬面接、小論文指導を行う。
- ・学校推薦で就職するときは必ず辞退しないように保護者にも指導説明する。

(4) 生徒相談

重 点 目 標
① 不登校生徒のカウンセリングを促す。
② 欠席過多の生徒や不登校気味の生徒への家庭連絡を適切に行う。(家庭との連絡を密にする)
③ カウンセリングを実施して、登校率を向上させる。
④ 全日制スクールカウンセラーとの連携をとり実施している。

(考察)

- ・本校は通学型の通信制なので授業を受けないと卒業できない。前籍校で不登校であっても本校では出校するように指導している。しかし、なかなか以前の習慣が出てしまい不登校になるので指導に苦勞している。社会との関係を閉ざしぎみな生徒を通学し次のステージに行けるようにサポートする。

【課題】

- ・不登校気味な生徒は午後コース（少人数クラス）を受講できるようにする。
- ・女子生徒が増加傾向であるので生徒相談しやすい専任女子教員が必要である。
- ・家庭との連携を密にとり、生徒が出校できる環境をつくる。
- ・午後コースで慣れた生徒は午前コースを受講するように指導する。

【改善方策】

- ・専任女子教員を配置し、女子生徒が相談にのりやすい環境をつくる。
- ・常駐スクールカウンセラーをお願いし、保護者も相談できる体制にする。
- ・声かけをして話す機会を多し、信頼を得るように担任はつとめる。
- ・不登校に関する講習会に積極的に参加して、教員も生徒対応のスキルを高める。

(5) 生徒募集

重点目標
① 年間目標入学者数を確保する努力をしている。
② 入学相談者に対する入学率を向上させる。
③ 学校説明会を計画的・効果的に実施する。
④ 学校説明会参加人数が昨年を上回るよう努力する。
⑤ 退学者数を少なくする努力をしている。
⑥ 在籍数の多い高校を訪問して、現況報告する。
⑦ 業者による合同説明会に参加して、入学者数増に努める。

(考察)

- ・ 午後授業や体験学習の導入により、入学生徒数も徐々に増加傾向であるので、ほとんどの重点目標で昨年並みかそれ以上の評価をしているが、これに満足することなく本年度も新たな改革を進める必要がある。ただ退学者については不登校生徒の増加により若干増えたことは改善をするべきであると考えます。

【課題】

- ・ 新たな教育内容の改革を検討する。
- ・ 説明会の周知方法を検討する。
- ・ 校外の学校説明会への効果的な参加を検討する。
- ・ 本校の強みをどのようにアピールするかを検討する。
- ・ 退学者の減少させる方策を検討する。

【改善方策】

- ・ 入学した生徒が何望んでいるかをリサーチして改革をすすめる。
- ・ 転入学元の学校に「学校説明会」開催情報を適宜流す。
- ・ 広域制単位制との違いを学校関係者に理解していただく冊子を作成する。
- ・ 本校は通学型の通信制高校であることを理解して入学していただくようにPRを強化する。

(6) 総務

重点目標

- | |
|---------------------------------|
| ① ホームページの更新は時宜を得て行う。 |
| ② ホームページの資料請求・学校説明会の申し込みを増加させる。 |
| ③ 学校の情報を「メール発信システム」で適切に提供する。 |
| ④ 学校説明会の案内を効果的に配布する。 |

(考察)

- ・昨年度より評価は良くなっているが目の前の生徒の対応よりも後回ししてしまう仕事であるので積極的な努力がなされていない。ホームページの更新等がリアルタイムできていなかったり、「メール発信システム」よる生徒に対する情報が遅れてしまうなどがないように心掛けたい。

【課題】

- ・ホームページの常に新しい情報を掲載できるように努力する。
- ・ホームページのアクセス数の向上に努める。
- ・全日制の中学校ネットワークを利用して頂き広報活動をする。
- ・生徒への情報提供方策を検討する。

【改善方策】

- ・web を利用した新しい広報を検討する。
- ・Google、yahoo の検索広告を利用してホームページアクセス数の向上をはかる。
- ・ホームページの内容（新しい情報の更新）を教員全員でリアルタイムに更新する。
- ・在籍する生徒の前籍高校へ、状況報告を含め訪問して募集につなげる。
- ・中学校へ訪問し、不登校ぎみな生徒に直接指導する。

(7) 校務

重点目標
① 校外における美化活動を行っている。
② 環境整備に気を配り、ゴミを減少させる。
③ 省エネを推進し、エネルギー委員会の目標値「前年度比で1%」となるように努力し、意識の高揚を図る。
④ 日直を中心とした校内整備を行う。
⑤ 各階担当者・教室管理者による教室整備と校内美化に努める。

(考察)

- ・校舎が大きくないため、美化清掃活動は毎日の活動で十分であると思われるが、校舎の老朽化に対する対応が今後計画的に必要であると思われる。また、時代に即した視聴覚機器の導入、ネット環境の整備も今後検討が必要である。省エネの推進はあまり伸びていない。

【課題】

- ・校舎外壁等老朽化がはげしく、費用の捻出が必要である。
- ・視聴覚器具の導入やネット環境の整備の必要である。
- ・校内の破損箇所や機器の故障が多く、業者にお問い合わせする箇所も増加している。
- ・教員数が少ないため美化清掃や校内整備に時間が必要である。

【改善方策】

- ・教室担当者が責任をもって冷暖房機器や照明器具の省エネに努める。
- ・生徒にゴミ等を出さないように飲食禁止を徹底させる。
- ・教室等の担当教員を決め、自クラスの美化活動、節電を実践する。
- ・予算取りをして年間計画で営繕を実施する。
- ・夏休み等を利用して、職員自ら修繕できることは行う。

(8) 事務関係

重点目標
① 業務の効率化を図り、残業ゼロを目指す。
② 職員室の基幹データと共有し、データの一元管理を目指す。
③ 電話等の対応を適切に行っている。
④ 入学相談等、入学に関わる事務を適切に行う。
⑤ 就学支援金事務作業を円滑に行う。

(考察)

連携校も含めると在籍数1500名程度の生徒の管理をしているので2名の事務職員では不十分ではあるが、教務の効率化を図りながら事務処理を行っている。現在、教務データや指導要録等の書類は手書きであり、在籍証明、成績証明等の書類発行は非常に効率が悪い。早急に改善する必要性がある。

【課題】

- ・業務が多いため事務関係の仕事を教員が行うこともある。
- ・教務データの一元化をすすめているがまだ完成していない。
- ・生徒数1500名分のデータを管理するため、かなり煩雑になる。

【改善方策】

- ・連携校7校（在籍1200名程度）の事務処理と本校単位制（在籍300名程度）事務処理を分けて行う。
- ・連携校の事務と単位制の事務は別物であるので分けて行う。
- ・過去の卒業生データの電子化には膨大な時間がかかるため、現状のままで事務処理を行うしかない。
- ・現在のデータは早急に電算化をして事務処理の効率化を図る。

IV 本年度の具体的な取り組み

- ・ 午後コースの授業時数の増加（8限目授業の実施）
- ・ 総合学習（体験学習）の充実（講座数の増加）
- ・ 留学プログラム（海外短期留学）の新設 オーストラリアへ1名参加
- ・ 出口指導の強化（進学指導・就職指導等）
- ・ 昨年度の高体連加入により本校より硬式テニス、ボクシング競技の大会に参加

V 来年度の具体的な取り組み予定

- ・ 学び直し講座の新設（国語、数学、英語）3講座
- ・ 進学講座の新設（国語、数学、英語、日本史、現代社会、生物、化学）6講座
- ・ 定期券購入（名鉄、JR、愛環）※週2日以上通学する生徒のみ
- ・ 姉妹校進学説明（内部進学率向上のため）
- ・ 常駐スクールカウンセラー（水曜日のみ）
- ・ 健康診断と共に歯科検診の実施
- ・ 各教室モニターの増設

VI 重点目標の達成に対する考察

全体の評価としてはすべての項目について昨年度並み、あるいはそれ以上の評価であり現状に満足している様子がありますがこれで満足するべきではなく、さらに改善すべき点を考察して改革していくべきである。特に本校は転学生が70%程度在籍しているので本校を卒業することを目標にしている生徒に対してそれ以上望まない傾向がある。しかし、まだまだのびることができる生徒がたくさんいると考えるので生徒の状況をしっかり把握して教育的指導を目指したい。また、生徒募集については教員の評価も上がり、実際の生徒数も増加傾向にあるので今後も継続していきたい。

本校は連携校も含めると1500名の生徒の事務処理を行っているので、早急にシステム化をして、ミスのない事務処理をする必要がある。また、将来に向けて生徒に満足して頂ける教育内容をさらに充実することが本校が地域住民に望まれることであるので、さらに教育内容の充実をするように努力していきたい。

Ⅶ 生徒アンケート結果の総合考察

本年度は125名の生徒からアンケートを実施した。昨年度の結果と比較すると各項目で現状維持か、少しずつではあるが伸びている状況である。午後授業の開講で、不登校であった生徒や女子生徒が増加していることもあり、相談しやすい女子教員とスクールカウンセラーの常駐が必要である。生徒が安心して学校生活ができるように、また、希望者には全日制と同じような教育が受けられるように改善していきたい。

Ⅷ 保護者アンケート結果の総合考察

本年度は90名の保護者からアンケートを実施した。ほとんどの項目については満足していただいているが、生徒より本校に対する期待は大きいようである。また、生徒の希望は卒業だけを考える生徒が多いのに対して、保護者は進路についても全日制と同じように希望をしている。そのような生徒には三者面談を繰り返し実施する必要がある。また、進学を考える生徒も多く、保護者からの要望で来年度より学び直し講座・進学講座を開設する予定であり、さらに保護者対象のカウンセラーもスクールカウンセラーに実施して頂く予定である。

Ⅸ 今後の方向性

本校は今後も通学型の通信制高等学校として、広域制通信制のように通学しなくてもよいことをPRする学校ではなく、全日制ではないが本校に通学し、生徒に対して付加価値を身につけて社会へ大学へ行かせることを目標とします。

そのためには中学校不登校であっても高校を中退した生徒でも、現在は通学し高校資格を得るだけでなく将来のために遅れた勉強を頑張れることができるようにしたいと考えます。そのため到来年度より学び直し講座や進学講座を開講します。

今後は進学だけではなく、将来のためになるような講座を開講し生徒にさらに付加価値をつけて次にステージへ行かせたい。

開講例 英会話・留学講座 電気工事士資格取得講座 情報処理資格取得講座
危険物取扱資格取得講座 公務員試験合格講座 メイク・ネイル講座など

X 学校関係者評価委員会報告書(全日制・通信制課程単位制合同)

[学校関係者評価委員]

後援会会長

鈴木基夫氏

後援会副会長

清水美之氏

保護者会会長

山田朝恵氏

藤川町西部総代

中田正儀氏

西尾自動車学校校長 宇井均氏

1 学校教育目標に対する意見

- ・建学の精神に「社会に貢献できる人材の育成」とあるが、最近の若者を見ると自分の意見を言うことが少なく、困難な場面に直面すると逃げる傾向にある。是非、社会に役立つ生徒の育成をお願いしたい。
- ・「誓いの言葉」を毎朝昌和することは、素晴らしいことである。報恩感謝の気持ちを忘れずに毎時間の授業を大切に、学校生活を送って欲しい。そして生徒自身が「社会から喜ばれる人間」になりたいと思える教育を実践して欲しい。(全日制)

2 教務に関する自己評価への評価・意見

- ・定期試験の欠点者に対し、学習支援教室(寺小屋)を週3回実施していることは、大変評価できる。教員の仕事が増えるが、今後も継続して欲しい。(全日制)
- ・生徒は先生によって変わる。「居眠りをしない。させない。」授業の工夫をお願いしたい。
- ・結果に満足せず、さらに高い目標設定をすることによって、マンネリ化が解消され、学校自体の評価も上がると思われる。今後も努力されることを期待する。
- ・先生方の授業時数が多くてたいへんである。減らすことを検討すべきである。(単位制)

3 指導に関する自己評価への評価・意見

- ・最近の高校生は、デューバックを背負って乗車する者が多い。特に、車内が混雑しているときは、網棚等利用するなどの配慮が欲しい。(全日制)
- ・学校周辺の定期的な清掃活動や地域行事への参加などが、定着してきている。今後も継続して活動をお願いしたい。
- ・部活動の生徒と思われるが、下校時に立ち止まって挨拶をしてくれる。また、校舎内でも多くの生徒が挨拶をしてくれる。なかなかできることではない。(全日制)

4 進学指導に関する自己評価への評価・意見

- ・進学校化ということで、以前と比べると本校への入学が難しくなっている（偏差値が上がった）と聞いているが、旧帝大（東京大学、京都大学、名古屋大学など）への合格者の名前を聞かなくなった。寂しいと感じる。今後に期待したい。（全日制）

5 総務に関する自己評価への評価・意見

- ・ペーパーレス化が進んでいないようである。P Cやi P a dなどを活用し、紙使用量を減らす工夫をお願いしたい。

6 渉外に関する自己評価への評価・意見

- ・少子化が進む中、普通科の進学校化ということで基準を上げているようだが、現実には入学者数減となっている。今後の心配である。（全日制）
- ・学校の評判を上げるためには、現場で授業をしている教員が、魅力ある授業展開をすることが一番大切である。地道に努力して、入学者増に繋げて欲しい。
- ・通信制の内容がようやく理解できた。知らない人が多いのもっと広報すべきである。（通信制）

7 学年に関する自己評価への評価・意見

- ・2学年の欠席率や転退学率が低いということで、評価が高い。今後も頑張ってもらいたい。（全日制）

8 事務に関する自己評価への評価・意見

- ・特に意見がないため、自己評価は適切であると判断できる。

9 その他(全般)意見

- ・教務と学年の目標に転退学者率の目標値が記載されているが、転退学を望んで入学してくる保護者や生徒は一人もいないと思う。従って、目標値を設定することはいかなものかと感じる。結果のみの記載で良い。
- ・三河高校は熱心な先生が多く、指導体制が充実しており、生徒を育てている。このことをもっとアピールすることが必要である。
- ・三河高校の魅力を前面に出して、外への発信力を強化する。

